



「火曜喫茶店」の最近の企画展を見る

大上地区社協が管理・運営している“深谷大上ふれあいの家”では、毎週火曜日に「火曜喫茶店」が開かれ、誰もが自由に来てお茶やコーヒーを飲みながらおしゃべりしたり、囲碁や将棋を楽しんだりの自由な形で運営され、大上の皆さんが大勢利用しています。

この火曜喫茶店は、大上地区社協の岩月理事が店長を務めていて、月に1~2回は特別に「企画展」を催して人気を博し、大人だけでなく小学校の児童も授業の一環として見学に来館します。そこで、最近の企画展を紹介します。

企画展の開催については、大上地区の各区にある15カ所の掲示板でお知らせしています。3月の企画展は、5日が「流木と蝶展」、19日が「昭和展」を予定しています。

布あそびとつるし雑展

1月22日(火)は、館内に吊したり、机上に展示した「布あそびとつるし雑展」が催され、大上の人たちや北の台小学校3年生の全員も見学に来館した。

特に3年生の児童は、地域を知る授業の一環として午前中に2つのクラスの70名が先生に引率されて来館。目を輝かせて熱心に見学し、そして質問の時間では、つるし雛にはなぜうさぎやふくろうがあるのか、人参や大根は、金魚の目が大きいのはなぜかといった質問が続出。講師で大上5丁目に在住の浦谷勝子さんが丁寧に説明し、児童の皆さんはしきりにうなずいていました。

一方、北の台小学校の保護者あての「北の台小だより」1月号でも3年生の“つるし雑展”見学が、写真入りで紹介されていました。



児童の皆さんへ説明する浦谷さん

おばあちゃんと嫁のニット展

2月5日(火)は、大上7丁目在住の86歳の小嶋照子さんと嫁の雅子さんによる「おばあちゃんと嫁のニット展」が催された。

当日は2人が手作りした編み物の帽子やチョッキ、セーター等の作品が展示され、来館者は出来栄えに感心していました。見学者の婦人は“お姑さんと一緒に編み物をやっているって素敵ですね。作品も良く出来ていて感心しました。私も見習わなくちゃあ!”と話していました。



婦人の見学者に人気のニット展

和紙で作った人形展

2月19日(火)は、大上8丁目在住の見上ミヤさんが子どもの遊ぶ情景や日本人形など、すべてを和紙で作った作品展が催された。

当日は7区の尾池美智子さんが、同じ和紙で作った人形を色紙に貼った作品を協力出品され、作品展を盛り上げていました。

見上さんは現在90歳ですが、眼鏡をかけずに新聞も読めるという。そんな見上さんが長年にわたって作った力作が展示され、見学者は時代の変化と共に見事に作られた作品に感心して見入っていました。



見事な作品が揃った人形展